

熱帯水産学国際連携プログラムの推進 (受入れ)

鹿児島大学水産学部
石崎宗周



1. 鹿児島大学水産学部における海外研修(経緯)
2. 熱帯水産学国際連携プログラムとは
3. この学生受入れプログラムについて
4. まとめ

1

鹿児島大学水産学部



8学部

共通教育センター

10研究科

学生数10,000名(内留学生300名)

学生数2,000名

教職員数2,500名

水産学部

- 正規教育課程
- リカレント教育
 - 日本国際協力機構 (JICA)
 - 海外漁業協力財団 (OFCF)

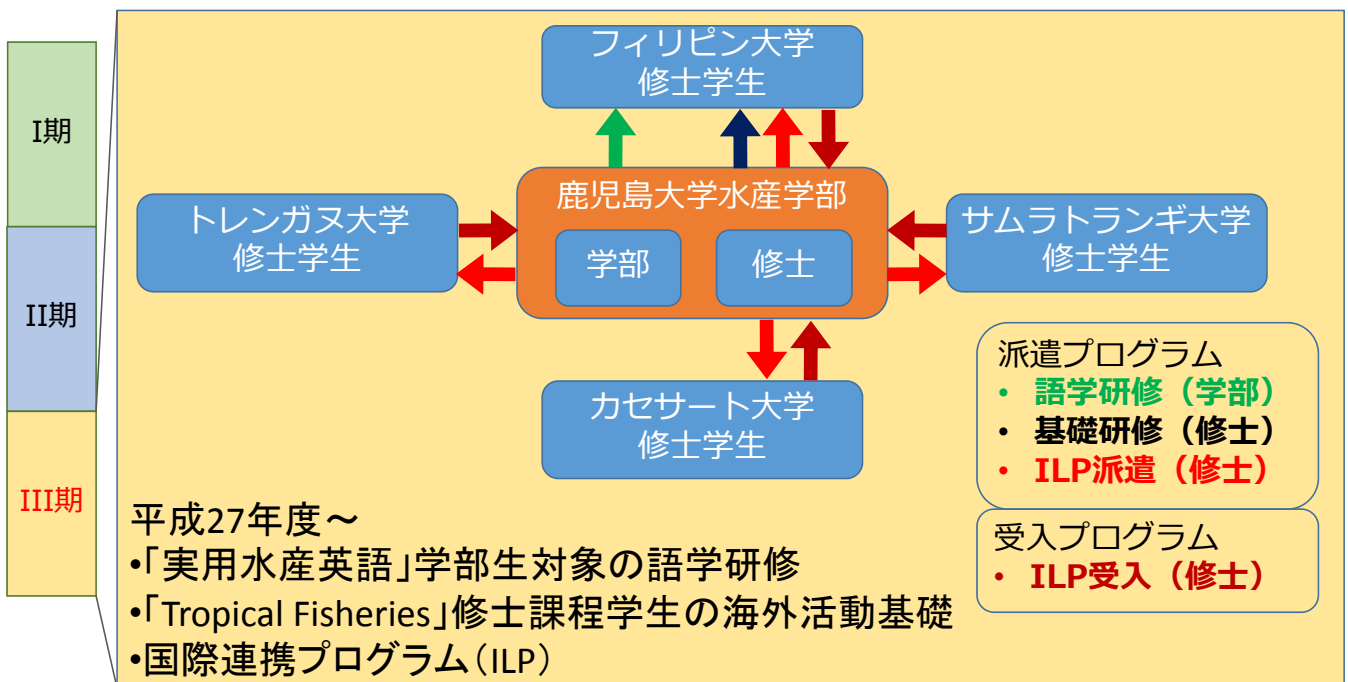
2

海外研修(経緯1/2)

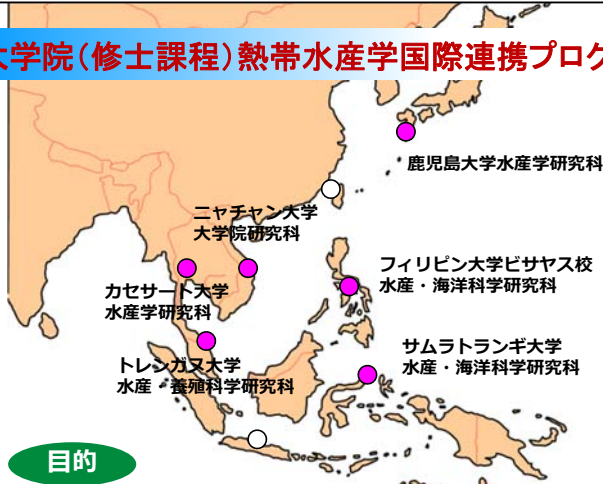
I期	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年度から21年度(3カ年)文科省特別教育研究経費 「Current Status on Philippine Fisheries, Agriculture and Health」 医歯学総合・農学・水産学研究科対象 フィリピンの概要、漁業技術、養殖技術・現状、水産物加工、農業、医療制度、地域医療制度および関連施設見学
II期	<ul style="list-style-type: none"> 水産学研究科の正規授業科目として実施 平成22年～「Advanced Lecture on Tropical Aquaculture・Fisheries」 水産学研究科学生に対象限定 フィリピンの概要、漁業、養殖、加工、関連施設見学、学生自主活動 (学長裁量経費海外研修渡航費補助) (平成24年度JASSO留学生交流支援制度(ショートステイ・ショートヴィジット))
III期	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度～「実用水産英語」 学部生対象の語学研修の開始 (学部海外研修渡航費補助事業平成26年度～)

短期学生受入れ
フィリピン大学
カセサート大学

海外研修(経緯2/2)



大学院(修士課程)熱帯水産学国際連携プログラム



目的

- グローバル化する社会で水産分野での食料安全保障のために活躍できる人材の育成
- 熱帯水産学に関するアジアの国際共同教育アライアンスの形成
- 我が国の大学の国際的通用性を担保する教育システムモデルの提案

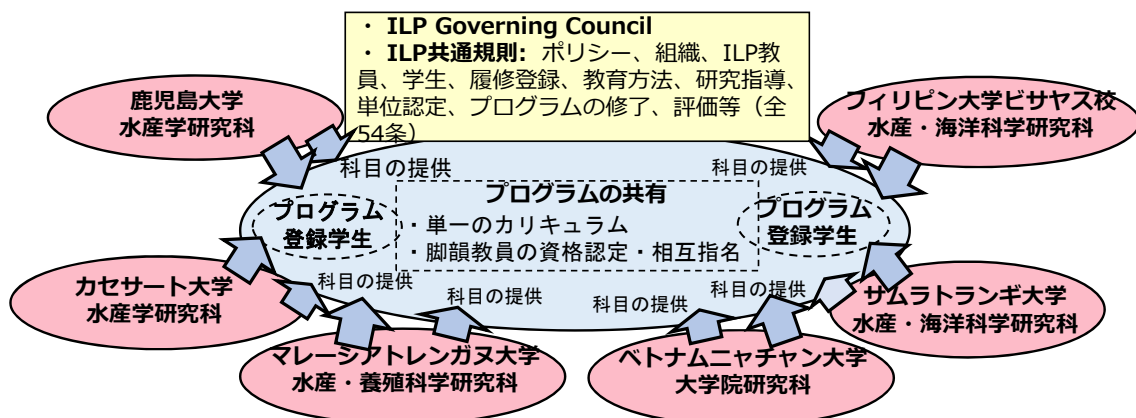
取組経過

- 平成24年 5月 現構成研究科に鹿大水産学部が研究科国際連携プログラム案を提示。
- 平成25年 2月 参加校国の教育関係法令、学則、教務関係規則等の差異の共同検討作業開始。
- 平成25年 6月 計画合同委員会を設置し、同規則・カリキュラム制定作業を開始。
- 平成25年 8月 研究科国際連携プログラムに関する基本協定に調印、運営協議会準備委員会を形成
- 平成26年 8月 研究科国際連携プログラムに関する詳細に合意、協定に調印
- 平成27年 4月鹿兒島大学、8月他大学がプログラム開始

本プログラムの内容・特徴

- ASEAN域内の5カ国の大学院水産学系研究科(修士課程)が、熱帯水産学国際連携プログラムを開設し、単一の教育システムの下で国際共同教育を行う、アジアで初めての組織を形成する。
- 単一の組織で、カリキュラム・教員・学生を共有する新たな制度を開発した。
- 構成大学が強み・特徴を持った科目を提供し合ってカリキュラムを形成し、魅力的で質の高い教育を行う。
- プログラムを履修した学生には、海外での単位取得を義務付け、いずれの構成大学でもそれぞれの特徴と魅力ある科目を学び、単位を取得できるようにする。
- グローバル化社会で活躍できる人材を海外の機関や海外ビジネスを展開する企業に供給できる。
- 構成大学は、互いの国・大学の制度から学び合い改善することで、質の高い教育を提供でき、国際的通用性を担保するモデルとなりえる。
- 本研究科からは高度機器実習、修士課程総合指導、乗船実習等の科目を提供する。主要講義科目のすべてを英語で行いプログラム学生に開放する。

ILPにおけるプログラム共有の仕組み



【制度設計の基本】

- (1) ILPは、すべてのILP学生に同等・同質の教育を付加的費用なしで提供する。
- (2) 構成研究科が提供したすべての科目は、すべての構成研究科で共有する。
→各研究科はすべての科目を自ら開講している科目と見做せる。
- (3) すべてのILP登録教員は互いに客員教員等に任命しあう。→各研究科はすべての構成研究科ILP教員を自らの教員と見做せる。
- (4) これらによって、ILP登録学生はいずれのILP科目も自らの大学の開講科目として履修でき、単位を修得できる。

登録教員と授業科目 (1/2)

Schools	教員数	科目数 (単位数)	登録 学生数
サムラトランギ大学(インドネシア)	31	14 (38)	5
鹿児島大学水産学部	41	18 (28)	10
トレンガヌ大学(マレーシア)	31	11 (33)	5
フィリピン大学ヴィサヤス校(フィリピン)	14	14 (39)	5
カセサート大学(タイ)	43	17 (51)	5
ニャチャン大学(ベトナム)	22	20 (38)	5

7

登録教員と授業科目(2/2)

教員の履歴書とシラバスは運営協議会に送られ教育の質の保証を確認される。

(1) プログラム担当教員は

- 学位があること
- 客員教授として任用されること

(2) Subjects

- 1単位当たり45分・15回実施



8

ILPにおける履修例

1. 鹿児島大学A君			2. 鹿児島大学B君		
授業	開講大学	単位認定	授業	開講大学	単位認定
授業1	鹿児島大学	鹿児島	授業1	鹿児島大学	鹿児島
授業3	カセサート大	鹿児島	授業6	鹿児島大学	鹿児島
授業5	カセサート大	鹿児島	授業7	フィリピン大	鹿児島
授業6	鹿児島大学	鹿児島	授業9	フィリピン大	鹿児島
...	鹿児島	鹿児島
3. フィリピン大学C君			4. フィリピン大学D君		
授業	開講大学	単位認定	授業	開講大学	単位認定
授業1	鹿児島大学	フィリピン	授業3	カセサート大	フィリピン
授業6	鹿児島大学	フィリピン	授業5	カセサート大	フィリピン
授業7	フィリピン大	フィリピン	授業7	フィリピン大	フィリピン
授業9	フィリピン大	フィリピン	授業9	フィリピン大	フィリピン
...	フィリピン	フィリピン

- 鹿児島大学でA君、B君、C君は共学
- カセサート大でA君D君は共学
- フィリピン大でB君、C君、D君は共学

- C君はB君のフィリピン大でのカウンターパート学生になれる
- (B君はC君の鹿大でのカウンターパート学生になれる<=基礎研修)

- D君は、鹿大の授業には興味を持たなかった。
- 成果発表会で、A君とB君は経験を共有。
- 成果発表会で、C君とD君は経験を共有。

ILPプログラム修了要件

下記の要件を満たしたILP登録学生に対し、ILP GCがプログラム修了証を授与する。

- (1) 授業科目の履修による単位を24単位以上、研究指導を受け学位論文を提出したことによる単位を6単位以上修得していること
- (2) ILP授業科目の履修による単位を12単位以上修得していること。上記12単位のうち6単位以上は、所属大学以外のILP構成研究科が提供する授業科目の履修により修得したものであること
- (3) 学位論文を提出すると共に最終試験に合格し、所属大学において修士課程を修了していること

鹿児島大学水産学研究科の国際対応・改革

- 平成27年度からクォーター制採用(サマーセッションを含む)
→学事歴の柔軟化。ASEAN Codeの統一学期にできるだけ近づける。
- サマーセッションでの英語による集中開講とⅡaクォーターでの授業科目なし→海外派遣、長期インターンシップ、研究への集中等が可能
- 修士研究指導及び修士論文の単位化(ただし終了要件外)
→日本の大学院設置基準と国際標準の妥協
- 18科目27単位分の授業科目を英語で開講(平成26年度から試行)

学期	開始時期	期間	1年	2年
前期	4月～	8週間	Ia	III a
		8週間	Ib	III b
	8/18を含む週の翌月曜日～	4週間	SS	
後期	10月～	8週間	IIa	IVa
		8週間	IIb	IVb

熱帯水産学国際連携プログラムの推進(受入れ)

- 国際連携プログラム (ILP) に基づく学生受入れ
 - プログラム科目の本学学生との同時受講
 - **Development of Tropical Fisheries**...
 - **Latest Analytical Biology** ...
 - **Experimental On-board Training**...
 - 専門分野に応じた研修室配属
 - 高度な分析器を用いたミニ研究・分析指導
 - **Latest Analytical and Experimental Methods**
 - 研究室学生との情報交換
 - 休日の学外活動を通じた異文化理解



ILP提供授業科目（鹿児島大学提供）

Subjects	Semesters	Credits
Aquatic Sciences	Quarter Ia	2
Fishery Resource Sciences	Quarter Ia	2
Fishery Food Sciences	Quarter Ia	2
Fisheries Economics	Quarter Ia	2
Aquatic Environment Conservation	Quarter Ia	2
Fisheries and Fisheries Sciences	Quarter Ia	2
Latest Analytical Biology (Lab.)	S.S. Intensive	1
Latest Analytical Chemistry (Lab.)	S.S. Intensive	1
Latest Analytical Technology (Lab.)	S.S. Intensive	1
Latest Analytical Biochemistry (Lab.)	S.S. Intensive	1
Latest Analytical and Experimental Methods (Open)	Occasional	1
Development of Tropical Fisheries	S.S. Intensive	2

Subjects	Semesters	Credits
Current Issues in Fisheries	S.S. Intensive	2
Archipelagic Marine Biology	S.S. Intensive	2
Basic On-board Training	Occasional	1
General On-board Training	Occasional	1
Experimental On-board Training	Occasional	1
Internship	Occasional	2
Scientific Paper Reading and Comprehension II	Occasional	2
Practical English Training S	Semester I	2
Overseas Training on Tropical Fisheries	Intensive	2
18 subjects		28

ガイダンス	第1週	第2週	第3週	第4週	まとめ
土・日	月～木	金～日	月～木	金～日	月～木
					1週+3日

13

受入れ学生数の変化

	フィリピン	カセサート	トレンガヌ	サムラトランギ大学	ニヤチャン	合計
平成27年度	5	5	0	4	—	14
平成26年度	0	5	—	—	—	5
平成25年度	5	—	—	—	—	5
平成24年度	4	—	—	—	—	4
平成28年度？	5？	5？	5？	5？	5？	25？
総受入れ	4	4	4	4	3	23
奨学金支給	3	3	3	3	3	18

14

グローバル化する社会で水産分野での食料安全保障のために活躍できる人材の育成

- 今後
 - コンテンツの検討
 - 開講時期の検討
 - 構成校の追加
 - 国レベルの追加
 - 同一国内の追加
 - 正規課程留学生確保
- 問題点
 - 受入れ宿舎
 - 専門分野の拡大
 - 対鹿児島以外への派遣
 - 渡航費補助

- 定期協議会の活性化
- 構成大学の自立
- 現構成大学による拠点形成
- 国内関連大学との連携

